

# 緑のセンターだより



No.157

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター（相談所）  
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel : 0166-65-5553 Fax : 0166-65-5626  
旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行：平成 27 年 12 月 1 日

## 講習会のご案内

（お申込み・受付は前月の 20 日から）

### 「クリスマスからお正月の寄せ植え」（実習）

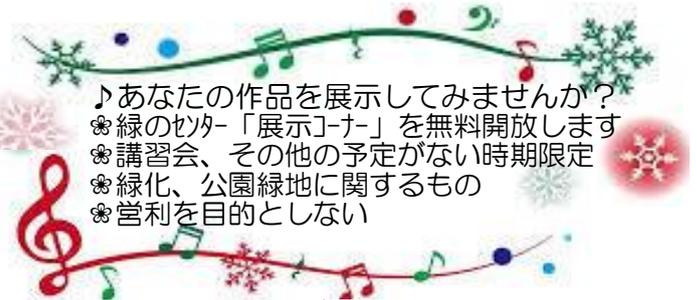
とき 平成 27 年 12 月 6 日（日） 教材費 2,500 円  
午後 1 : 30 ~ 3 : 30 定員 20 名  
講師 フラワーマスター 山本裕美さん



～年末年始のお知らせ～  
12月30日～1月4日まで  
休館させていただきます。  
新年は1月5日から開館いたします。

### 「果樹の剪定と栽培管理」

とき 平成 28 年 2 月 21 日（日）  
午後 1 : 30 ~ 3 : 30 定員 50 名  
講師 ふじくらますも果樹園  
代表 増茂 聡さん



♪あなたの作品を展示してみませんか？  
※緑のセンター「展示コーナー」を無料開放します  
※講習会、その他の予定がない時期限定  
※緑化、公園緑地に関するもの  
※営利を目的としない

#### ◎歩くスキー無料貸出について

- ・貸出するもの：スキー、くつ、ボールの3点
- ・持参するもの：帽子、手袋、ソックスなど
- ・注意すること：靴のサイズが揃っていない（ソックスで調整が必要）

予定

貸出期間：12月中旬～2月28日  
// 時間：10時～16時  
（返却は5時まで）  
（神楽岡公園内）  
歩くスキーコース：距離約3km



2年ぶりの旭川です。また、みなさまにお会いできるのを楽しみにしております！

#### 特別講習会のお知らせ

「植物の病害虫と園芸薬品」  
“NHK 趣味の園芸” 草間祐輔氏  
による大人気の講習会です  
日時：2月25日（木）  
10時～12時 定員50名



## 展示会のご案内

（初日は午後から、最終日は4時まで）

### 【休館日のご案内】

4月～10月は第2・第4月曜日が休館日です（祝日の場合は翌日）  
11月～ 3月は毎週月曜日が休館日です（ “ ” ）

### 「神楽岡公園の自然写真展」

12月5日～1月24日



写真展

# 〈園芸の基礎知識〉 花のしくみと役割

## ～ 花序の種類 ～

植物の花は、種類ごとに花の付き方が一定の方式に従って配列します。この花の付き方と花の付いた枝全体を「花序」と呼びます。花序は枝の分枝の仕方により次のように分類されます。

■ **単一花序**…花序が1個だけのものをいいます。

● **総穂花序**…単一花序のうち、単一の花軸から分枝(=単軸分枝)したそれぞれの側枝に花が咲くものをいいます。これを無限花序又は求心性花序とも呼び、一般に花軸の先端には花を付けず、下から上に咲き進み、最後に最も上の花が咲きます。これを更に分類すると、ナズナなどの「**総状花序**」、オオバコなどの「**穂状花序**」、コデマリなどの「**散房花序**」、アリウムなどの「**散形花序**」、ヒマワリなどの「**頭状花序**」に分けることができます。

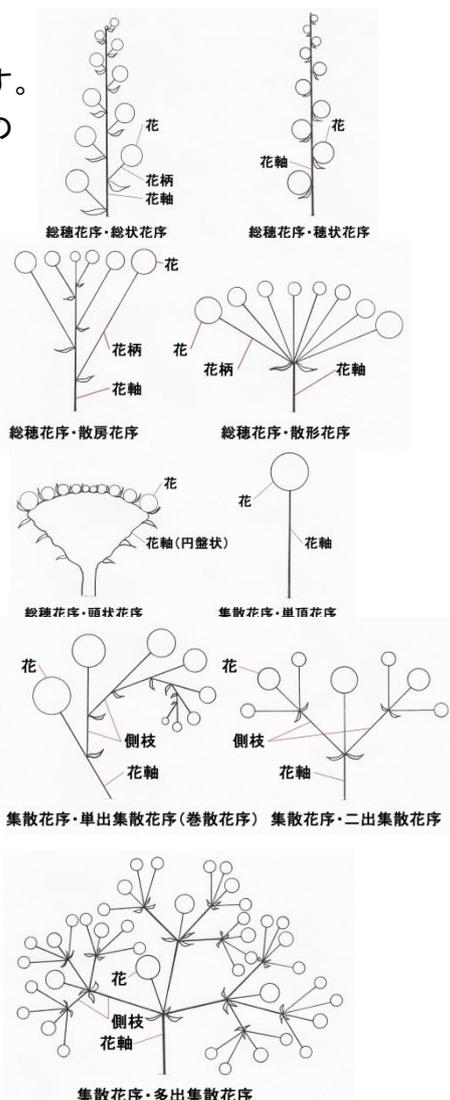
● **集散花序**…単一花序のうち、花軸の先端に1個の花が付き成長が止まり、そのすぐ下から側枝が分枝(=仮軸分枝)して花が付くという形式が繰り返されてきたものをいいます。これを有限花序又は遠心性花序とも呼び、一般に花軸の先端の花から咲き始め、下に向かって咲き進みます。これを更に分類すると、スマシロなどの「**単頂花序**」、ワスレナグサなどの「**単出集散花序**」、カワラナデシコなどの「**二出集散花序**」、アジサイなどの「**多出集散花序**」に分けることができます。

■ **複合花序**…単一花序が複数集まったものをいいます。

● **同形複合花序**…同じ種類の花序が組み合わさったものをいいます。これを更に細分すると、ナンテンなどの「**複総状花序**」、コムギなどの「**複穂状花序**」、シモツケなどの「**複散房花序**」、セリなどの「**複散形花序**」、オミナエシなどの「**複集散花序**」、イなどの「**繖状(りんじょう)花序**」、オドリコソウなどの「**輪散花序**」に分けることができます。

● **異形複合花序**…2種類以上の花序が組み合わさったものをいいます。更に細分すると、ミヤコザサなどの「**穂状総状花序**」、ヤツデなどの「**散形総状花序**」、ベニバナトチノキなどの「**巻散総状花序**」、オタカラコウなどの「**頭状総状花序**」、キオンなどの「**頭状散房花序**」、ヤナギトラノオなどの「**密錐花序**」、ノリウツギなどの「**円錐花序**」に分けることができます。

(参考資料: 小学館「園芸植物大事典」、誠文堂新光社「はなとやさいづくりの園芸用語事典」、八坂書房「図説 植物用語事典」)



## 緑の相談 Q&A (31)

**今年の夏に、緑のセンターで「プレクトランサス・モナラベンダー」という花苗を購入し育てています。最近枝先に花芽らしいものが伸びてきました。これからどのように育てればよいか教えてください。**

プレクトランサス・モナラベンダーは、シソ科サヤバナ属の多年草で、南アフリカが原産の短日植物です。花はサルビアに似た紫色の穂状の可愛い花で、秋～冬にかけて多くの花を咲かせます。夏場は半日陰を好みますが、寒さに弱いため秋～春は暖かい室内の窓辺で育て、鉢土が乾いたらタップリ水を与えてください。(冬は乾かし気味)花が終わったら花茎のつけ根で切り取ってください。切戻し・植え替えは5月中旬頃です。(参考資料: 北海道新聞社「北海道園芸作業12カ月」、NHK 出版「趣味の園芸」ほか)



※ホームページ (<http://www.asahikawa-park.or.jp>) に「花と緑の相談コーナー (Q&A)」を掲載しています。こちらでもご利用ください。

# 植物の病害

## その28 「 キュウリの黒星病 」

### 1 発生状況

近年では1987年及び1990年に多発しました。家庭菜園では発生しやすい病気です。

〈茎と果実の症状〉



### 2 病徴

葉、茎、果実に発病し、苗の時期には本葉が展開して、2～3葉期の葉に発病します。はじめは、水浸状のくすんだ斑点ができ、しだいに周縁が黄褐色の不正形の病斑となります。定植後のキュウリの葉に発生すると、はじめはやや黄色い斑点を生じ、しだいに褐色となり、拡大して中心部は裂けやすく、周縁が白っぽい病斑となります。茎では、はじめ条斑を生じ、しだいに亀裂ができます。表面に黒色粉状のかび(分生子)を生じます。発病がもっと顕著なのは果実で、商品価値を低下させるので被害が大きいです。幼果に発病すると、暗緑色で円形～隋円形の斑点となり、しだいに褐変してややくぼみ、萎縮します。生育の進んだ果実では病斑部から「やに」をだし、濃緑色の(黒っぽく見える)かびを生じます。果実は病斑部から内側にわん曲します。また輸送中にも病勢が進展します。



### 3 寄主範囲

キュウリのほかにメロン、カボチャなど。

### 4 伝染経路と発生環境

罹病組織中の病原菌が越年して伝染源となるほか、種子伝染もします。分生子でまん延します。病原菌(クラドスポリム・ククメリナムというかび)の生育適温は20℃前後と比較的低く、発病適温は15～17℃付近です。従って、春先の育苗中や定食後に冷涼多湿な天候が続くと発生しやすいです。メロン、カボチャなどをキュウリと同じハウスで育苗するのは感染の恐れがあるので危険です。

### 5 防除方法

- (1) 種子消毒を行います。
- (2) 施設栽培では、湿度管理に注意します。
- (3) 低温続きで発病の恐れのあるときは、幼果や生長点付近を重点に薬剤散布をします。
- (4) 主な薬剤は、マンゼブ水和剤(商品名:ジマンダイセン水和剤ほか)、ジフェノコナゾール水和剤(商品名:スコア顆粒水和剤ほか)、TPN水和剤(商品名:ダコニール 1000 ほか)、チオファネートメチル水和剤(商品名:トップジンM水和剤ほか)、ベノミル水和剤(商品名:ベンレート水和剤ほか)などです。

## シクラメンをひと冬じゅう楽しむ

サクラソウ科 シクラメン属 地中海沿岸・中部ヨーロッパ原産

シクラメンは冬の室内を彩ります。購入してしばらくは葉と花のバランスもよく、その美しさに心が癒されます。しかし、しだいに見栄えが悪くなり、つぼみも咲く前に枯れたりして残念な結果になってしまうことがあります。栽培管理を見直して、癒しの時間と空間を長く楽しんでください。また、上手に夏を乗り切れれば長いお付き合いをすることも可能です。



### 《シクラメンの管理の仕方を再チェック》

- ①冬の適した温度は15℃以下、5℃以上です。暖房の入っている部屋(日中25℃・夜間15℃以上)では、花茎や葉が伸びすぎたりして、極端な場合は休眠してしまいます。夜は5~10℃が適温です。
- ②日光不足は花色が悪くなり小さなつぼみが咲かずに枯れる原因になります。できるだけ日光に当てて育てます。また、葉は日光の当たる方向に向く性質があるので、一週間に1回くらいは鉢の向きを180度回して日光の当たる場所を変えてあげます。
- ③株の中心部が葉で込み合ってくると、新しい葉や蕾が日光不足になります。中心の葉を外に引き出す「葉組み」を月に1~2回行い、光を株の中心まで当てて小さな葉や蕾も生長させて、花を咲かせます。
- ④水を欲しがります。鉢土の表面が乾いたら鉢底から流れ出るだけたっぷり給水しますが、球根は過湿に弱いので水がかからないように葉を持ち上げて鉢の縁に水を注ぎいれます。鉢皿には水をためない。
- ⑤肥料は液肥(1,000~2,000倍液)を7~10日に1回。置肥は2カ月に1回与えます。底面吸水鉢の場合は、液体肥料を薄めたものを鉢の底の受け皿に入れて吸収させます。
- ⑥黄色くなった葉や咲き終わった花は、病害虫の原因になるので株元からねじって取り除きます。
- ⑦夏越しは、半日陰の涼しい所(水やりは通常通り)で管理し、植え替えは活動期に入る秋に行います。

## 展示室の植物 (64)

チランジア キアネア アニタ (別名:タチハナアナナス

学名: *Tillandsia cyanea*)

パイナップル科 チランジア属

チランジア キアネアは、鮮やかな淡いピンクのウチワのような苞(ほう)に3cm程のブルーの花をつけ、独特の色合いと甘い香りを楽しむことができます。原産地は中南米(ペルー、エクアドル)ですが、一般家庭でも8℃以上で乾燥気味に管理すれば室内で十分に越冬させることができることから園芸店でも一般の観葉植物と同様に販売されていますが、普通の植物とは全く違う性質をもっています。

特に、根が殆どありません。根は水を吸うと云うよりも岩や木などに着生するための役目が主で、その代り、葉が養水分を吸収する能力を持っていることから「エアープランツ」の仲間には分類されています。また、特徴的な花も1回咲いた葉筒は再び花をつけることがなく、花の後に株もとにできた子株が成長して、新たな花をつけます。一つの花は2~3日と短命ですが次々と咲き、苞の観賞期間が2ヶ月と長いのも魅力の一つです。栽培は、明るい場所を好みますが直射日光の葉焼けに注意。用土が乾いたら葉上から十分に。とくに、葉水はこまめにやるのがよいでしょう。生育適温は20~30℃程度です。

